

## スクールポリシー 令和6年度評価

グラデュエーション・ポリシー： 「社会に貢献できる基礎基本を身につける」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生としての基礎学力</li> <li>・社会人としての基礎基本：挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓</li> <li>・責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力</li> <li>・グローバル社会の中で、多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する力</li> </ul>	アンケート 1=あてはまらない、2=あまりあてはまらない 3=どちらでもない、4=ややあてはまる、5=あてはまる						
カリキュラム・ポリシー： 「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を定着させるために繰り返し取り組む</li> <li>・学びの質を高めるためのICT機器の活用</li> <li>・グループワーク、ペアワークなどの協働を通して、異なる意見に耳を傾ける</li> <li>・自分の意見を持ち、発表活動へと発展させる</li> </ul>							
アドミッション・ポリシー： 「かなえたい夢のある生徒」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して努力する意欲のある生徒</li> <li>・自分を大切にし、他者も尊重できる生徒</li> <li>・ひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒</li> </ul>							
<b>グラデュエーション・ポリシー：「社会に貢献できる基礎基本を身につける」</b>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
指標1教員：高校生としての基礎学力をつけられる取り組みを十分行った(GP) 指標1生・保：高校生としての基礎学力をつけることができた。		3.4	3.4	3.6	3.0	3.1	3.4	4.1
指標2：社会人としての基礎基本(挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓)を身に付けられる取り組みを十分行った(GP) 指標2：生徒・保：社会人としての基礎基本(挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓)を身に付けることができた。		3.6	3.8	3.7	3.1	3.2	3.5	4.1
指標3教員：責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力を付けられる取り組みを十分行った(GP) 指標3生・保：責任ある大人になるために、自分で考え、判断し、行動する力をつけることができた。		3.5	3.7	3.8	3.2	3.3	3.5	4.0
指標4：多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する取り組みを十分行えた(GP) 指標4：(生徒・保護者)多様性を尊重し、対話を通して他者と協働することができた。		3.6	3.8	3.8	3.4	3.7	3.9	4.0
<b>カリキュラム・ポリシー：「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～</b>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
指標1：基礎基本を定着させるために繰り返し取り組めるよう、その手立てを十分行えた(CP) 指標1：生・保：基礎基本を定着させるために繰り返し取り組めるよう、その手立てがあった。		3.1	3.2	3.3	2.7	2.6	2.9	4.0
指標2教員：学びの質を高めるためのICT機器の活用について、その取り組みが十分行えた(CP) 指標2生・保：学びの質を高めるためにICT機器を活用することができた。		3.3	3.4	3.6	3.1	3.0	3.2	4.1
指標3教員：グループワーク、ペアワークなどの協働の学びを通して、異なる意見に耳を傾けられる活動を十分行えた(CP) 指標3生・保：グループワーク、ペアワークなどの協働の学びを通して、異なる意見に耳を傾けることができた。		3.6	3.8	3.7	3.1	3.4	3.4	3.9
指標4教員：生徒が自分の意見を持ち、発表活動へ発展できる活動を十分行えた(CP) 指標4生・保：自分の意見を持ち、発表することができた。		3.3	3.4	3.5	3.1	3.3	3.4	3.8
<b>アドミッション・ポリシー：「かなえたい夢のある生徒」</b>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
指標1：「かなえたい夢のある生徒」が入学している(AP) 指標1：生・保：本校のアドミッションポリシーを知っている		8.8%	19.3%	27.9%	20.2%	28.6%	22.5%	2.8
指標2教員：継続して努力する意欲のある生徒が入学している(AP) 指標2生・保：私は継続して努力する意欲のある生徒である		3.0	3.4	3.5	3.2	3.3	3.5	2.8
指標3教員：自分を大切ににし、他者も尊重できる生徒が入学している(AP) 指標3生・保：私は自分を大切ににし、他社も尊重できる生徒である		3.4	3.6	3.7	3.7	3.8	4.1	2.9
指標4教員：私はひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒である(AP) 指標4生・保：私はひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒である		3.2	3.5	3.5	2.9	3.2	3.5	3.0

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 1年生(51回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
1年生	目標1:学習習慣の確立と学習環境の充実	2.9			2.7			3.3
	指標1:進路目標を持ち、モーニングテスト・朝学や授業を大切に、学習習慣を身に付けることができた							
	目標2:ルールを守ろうとする態度を養い、社会に参画する態度を身に付ける	3.3			3.1			3.3
	指標2:規則を守り、目標と向上心を持って取り組めた。							
	目標3:他者を思いやりと共に自分を大切に、豊かな人間関係を築くための素地を養う	3.8			4.1			3.1
	指標3:無断遅刻や無断欠席をしないよう行動できた							
	指標4:他者を大切に丁寧な学校生活を送ることができた。	3.5			3.7			3.3
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)タブレットを活用した授業の展開や、英数国の長期休業中や考査前の課題に取組み、学習に対する習慣を向上させる。 (2)進路学習を通して、自分の進路に対して早い段階から意識させ、具体的な職業について調べ、考え、発表する取り組みを行い、目的を達成するためのプロセスや努力の必要性を考え、実行させる。 (3)授業を大切にするためにも対話型・グループワーク型の授業をできるだけ多く取り入れ、生徒たちが主体性をもって取り組めるように配慮する。	(1) タブレットを活用し、英数国の基礎内容を長期休業中や考査前の課題として取り組むことができていた。 (2) 総合探求や進路行事を通じて、自分の将来について具体的な職業について調べ、考え、発表する取り組みを行っており、目標達成のためのプロセスとしてプレゼンテーションの技術を習得できた生徒も見られた。 (3) ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、ポスターセッションを主体的に行える生徒の育成に取り組めた。						
目標2	(1)無断欠席や校則等が守れていない生徒には、粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切にする。その際、保護者とも協力し、無断遅刻・無断欠席0を目指す。 (2)人の話を聞く姿勢を育み、相手を思いやる気持ちを態度に示せるよう、場に応じた言葉遣いや相手を尊重する態度を身に付けさせる。	(1) 保護者会や学年通信を通じて保護者へ協力を呼びかけ、無断欠席や安易に欠席しないように基本的な生活習慣の確立を心掛けたが目標の達成には至っていない。 (2) 授業や集会を通じて話を聞く姿勢を育み、客観的に自分を見つめさせて、他人を思いやる気持ちを気付かせつつ、コミュニケーション力の向上の意識付けに到達できたので、来年度は行動できることを目標としたい。						
目標3	(1)いじめに対しては絶対にしてはいけないものとして毅然とした態度で指導し、いじめ件数0を目指す (2)人の話を聞く姿勢や相手を思いやる発言を大切にできるように普段の関わりの中で、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる。	(1) キャリア教育講演会や人権HR、講演会、心のサポートの講義、他者を理解する内容の講義等で予防的な指導を行ってきた。特定の間関係の中で、3学期にいじめが発覚し、指導力のなさを痛感した。 (2) 言葉遣いや挨拶についても目や耳に入るたびに言い直しをさせて正しい行動を身に付けさせるべく指導を根気強く行っている。近隣住民からの苦情は、減少している。また、近隣住民から感謝の連絡があった。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 2年生(50回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
2年生	目標1:学習習慣の確立と学習環境の充実	/	3.4	/	/	2.9	/	3.6
	指標1:朝学習や授業を大切に、学習習慣を身に付けることができた							
	指標2:自らの進路について考え、積極的に情報を集めることができた							
	目標2:ルールを守ろうとする態度を養い、社会に参画する態度を身に付ける							
	指標3:無断遅刻や無断欠席をしないよう行動できた							
	目標3:他者を思いやりと共に自分を大切に、豊かな人間関係を築くための素地を養う							
	指標4:友人関係を大切にして、いじめの無い学校生活を送ることができた							
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)朝学習を取り入れ、スムーズに授業に接続できるように準備等を含め学習する態度や学習に対する全体の雰囲気向上させる。 (2)進路学習を通して、自分の進路に対して早い段階から意識させ、目的を達成するためのプロセスや努力の必要性を考え、実行させる (3)授業を大切にするためにも対話型・グループワーク型の授業をできるだけ多く取り入れ、生徒たちが主体性をもって取り組めるように配慮する。	(1) タブレットを活用し、英数国の基礎内容を朝学習の時間に取り組むことができていた。 (2) 総合探究では、SDGsからのテーマを選択し、調査研究を行った。講座別プレゼンテーションを経て、優秀班は1・2年生の前で全体発表を行った。興味の幅が広がり、進路を意識しながら調査研究発表を行うことが出来た。また、進路講演会やその他進路行事を通して、自分の人生設計を見つめ、集団としての意識を向上させ行動に移ることが出来た。 (3) ペアワークやプレゼンテーションを主体的に行える生徒の育成に取り組めた。						
目標2	(1)無断欠席や校則等が守れていない生徒には、粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切にする。その際保護者とも協力し、無断遅刻・無断欠席0を目指す。 (2)人の話を聞く姿勢を育み、相手を思いやる気持ちを態度に示せるよう、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる。	(1) 生徒には年間を通じて学年集会やホームルーム、個人指導で遅刻欠席について説諭し、3学期は発熱・風邪・通院以外の遅刻欠席の数が減少した。保護者会を今年度は4回行い、場合によっては電話連絡を行い、保護者と連携を取った。自主性を重んじた充実した白銀合宿実施を目標に、生徒主体で学年集会も行い、規範意識を高めた。また、学年目標を体現するため、生徒と教員が一丸となって取り組み、その成果が白銀合宿で十分見られた。 (2) 集団・個人の資質向上を目指し、1年間努力を続けてきた。学年目標である①当たり前のことを当たり前 ②嘘をつかない ③自ら考えて行動する ④全力投球 ⑤愛される人になる を生徒も教員も意識し、よく頑張った。						
目標3	(1)いじめに対しては絶対にしてはいけないものとして毅然とした態度で指導し、いじめ件数0を目指す (2)人の話を聞く姿勢や相手を思いやる発言を大切にできるように普段の関わりの中で、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる	(1) いじめについて、学校生活全体を通じて丁寧に指導を続けている。 (2) 相手の意見に耳を傾けつつ、自分の意見も丁寧に伝える取り組みを続けてきた。善悪の判断を正しく行い、謙虚に真摯に努力する姿勢を身に付けつつある。50回生が思いやりを持った温かい学年になるよう期待している。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 3年生(49回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
3年生	目標1:進路実現のためのみならず、生涯学習として高校生活最後まで学習に取り組む	/	/	3.5	/	/	3.4	3.5
	指標1:授業を大切に、日頃の課題や小テスト、ペアワークなどの活動に前向きに取り組むことができた							
	目標2:多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する力をつける	/	/	3.6	/	/	3.6	3.5
	指標2:グループワーク、ペアワークなどの協働を通して、異なる意見に耳を傾けられる活動を十分行えた							
	目標3:責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する	/	/	3.7	/	/	3.7	3.4
	指標3:自分で考え、判断し、行動する力を付けられる取り組みを十分行った							
	指標4:自分の考えをもち、決まりを守りながら創意工夫を重ね、行動することができた	/	/	3.6	/	/	3.6	3.2
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)課題・小テスト・ペアワークの取り組みなどの評価が、3学期最後まで維持できるよう指導する	総合型選抜、学校推薦型選抜などの入試が始まった2学期以降においても、小テストやペアワークをそれまでと変わらずに授業に取り入れ、生徒たちはルーティーンとして取り組み続けた。特に3学期において、課題やペアワークの取り組みが良く、「高校生活最後」を意識した取り組みの向上が見られた。						
目標2	(1)授業のなかで異クラス・異性の集団を意図的につくり、普段関わりの無い者とのペアワーク・グループワークを増やし、対話をする機会を設ける。 (2)教員が指導する際に、生徒自身に考えさせ、自分の言葉で意見が言えるように対話する。 (3)他者を尊重する態度を育てる。教員自らが言動や行動において生徒を尊重する。また、対話をするためには他者を尊重することが最も重要な要素であることを粘り強く指導する。	シラバスを活用し、望ましい取り組み・行動を明確に伝えることができた。そのため、多くの生徒がペアワークに前向きに取り組んだ。授業や生徒指導において、すぐに教師が答えを示すのではなく、適宜ヒントを与えながら生徒自身が考え、自分の言葉で表現できるように努めた。授業内で意図的に、普段関わりを持たない生徒同士のペアをつくり、日頃聴けない意見を聞く機会を設けた。その際、傾聴する姿勢、態度などについて3学期まで変わらずに指導し続けることができた。						
目標3	(1)集会等、集団で行動する際に、生徒が司会し、お互いに他者へ配慮することを徹底する。集合時間に点呼が完了するよう習慣づける。 (2)授業内での発表やパフォーマンステスト、実技テストに主体的に取り組むよう指導する。	集会や学年行事の際に生徒代表が司会をすることが定着し、リーダーを助けるために集合点呼を早くするよう意識付けを徹底することができた。多くの生徒が、ゴールが明確な作業には集中して取り組むことができる。その特徴を教師が把握することで、実技テストの内容や取り組み方の伝達を工夫することができ、生徒が良いパフォーマンスを発揮することができた。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 総務部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
総務部	目標1:開かれた学校づくりと適切な情報発信	3.1	3.5	3.4	2.9	3.5	3.2	4.0
	指標1:オープン・ハイスクールや公開授業、学校からのお知らせ等を通じて宝塚東高校の取り組みや活動等、学校への理解が深まった							
	目標2:防災教育の充実	3.4	3.7	3.7	2.9	3.2	3.1	3.9
	指標2:職員、生徒の防災意識が高まった							
	目標3:様々な人権侵害について、学び、差別やいじめを予防する	3.3	3.7	3.7	3.0	3.1	2.9	3.9
	指標3:人権LHRや人権講演会を通して、人権意識が高まった							
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)オープンハイスクールや公開授業、ホームページ等での広報活動を通して、中学生や本校生保護者に向けて本校の魅力を積極的に発信する。 (2)中学生、中学校関係者に配布する「学校案内」を工夫し、本校が育てたい生徒像等がわかりやすく伝わるようにする。 (3)上記(1)・(2)の取り組みにより、令和7年度入試の志願者数(第一志望)の増加につなげる。	(1)今年度は11月にも実施し、年間で3回行ったが、7月、10月、11月に実施したオープン・ハイスクール(公開授業)には合計で795名の中学生・保護者の方々に参加いただいた。昨年度の635名と比較すると160数名の増加となった。さらなる参加者の増加をめざしたい。参加者の満足度を高めるために、よりわかりやすい学校紹介、説明時間の短縮、生徒がより主役となるようなあり方等が今後の課題である。 ホームページについては、各部活動のブログ更新を今年度より実施し、より最新の情報をお届けすることが可能となった。協力いただいた関係各位に感謝申し上げる。 (2)「学校案内」は、スクールポリシーを明確に打ち出し、本校の特色、取組をわかりやすく理解していただける内容となった。学校案内を、多くの方々に見ていただけるよう、本校ホームページに掲載した。 (3)2月の特色選抜の志願者は29名(募集定員24名)、3月の複数志願選抜志願者数は、3月上旬に判明する。						
目標2	(1)避難訓練を年に2回行うとともに、全校集会等を通じて防災教育に取り組む。 (2)消防署等関係機関の協力を得て、より効果的な防災教育を行う。 (3)防災マニュアルの内容の更新、見直しを行う。	(1)避難訓練を年に2回行うとともに、3月には全校集会等を通じて防災ジュニアリーダーの活躍も紹介する予定である。今後は違う想定での訓練も検討する必要がある。 (2)消防署等関係機関の協力を得て、避難前の心構えの周知が出来た。また、避難時に行方不明になる役の生徒を決め事前に打ち合わせを行い、職員が捜索するという実践的な訓練ができた。避難時間を計測することによって、避難のスピードを意識することが出来た。防災講演会に関しては今年度安富先生よりご講演頂いた。毎年様々な内容を実施して、生徒の防災意識の向上を図りたい。 (3)防災マニュアルの内容の見直しを行った。						
目標3	インターネット上における人権侵害、セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス(DV)、デートDV、ヘイトスピーチ、性同一性障害等、性別に起因する諸問題の解決が課題として挙げられるが、今年度は、「インターネット上の人権」とともにLGBTIについて人権LHRや講演を行い、理解を促し、いじめや差別を予防できる環境を整える。	(1)事前学習は全学年共通で行ったが、どの学年でも前向きに取り組む、障がいのある人の困りごとについて想像したり、自分自身の思い込みを自覚することができたりして、目標に向けて一定の学びを得ることができた。 (2)本年度の人権教育講演会は、講師の先生(河村武明様)に構音障害があるため、隣でパートナーの方が台本を読み、ご本人はスライドの前で身振り手振りするという独特な講演であったが、ほとんどの生徒が最後まで集中して聞くことができた。講演会後の感想でも多くの生徒が自分の人生に結びつけて講演内容を受け止め、自己肯定感をあげることができたと述べており、意義のある学びを得ることができたと考える。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 教務部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
教務	目標1:ICTを活用した基礎・基本的な内容の定着・充実	3.4	3.7	3.7	3.2	3.4	3.5	4.2
	指標1:プロジェクタやテレビモニターを使った授業やGoogle Classroom、iPadを活用して、基礎・基本の内容を身に付けることができた							
	目標2:自ら学ぶ意欲を育てる	3.4	3.6	/	2.9	3.1	/	4.1
	指標2-1(1,2年):3観点の評価がどのようになされているかが明確である。							
	指標2-1(3年):授業のなかに、主体性を育む取り組みや活動がある。	/	/	3.7	/	/	3.2	3.8
	指標2-2:授業のなかで行われる活動(座学、グループワーク、ペアワーク、アプリの活用など)の目的が明確である。	3.4	3.6	3.6	2.9	3.3	3.2	3.9
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)ICTを用いた学習支援が行えるような研修機会をもうける。 (2)基礎的・基本的内容を個別的・反復的に学習できるようなシステム導入をすすめる。	ICTを活用しての学習支援については、各教科で生徒や教員の実態に応じて進捗がある。研修の余地はまだあるものと考えているが、本校の取り組みは生徒の実態に応じて自然で、かつ先進的なものであると考える。 基礎的・基本的内容を個別的・反復的に学習できるようなシステム導入については、Google Classroom、ロイロノート、モノグサ、すららを使っての授業の振り返りや予習復習などが導入できており、順調に進んでいる。						
目標2	(1)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点を明確にし、生徒の自ら学ぶ姿勢を育む授業づくりについて教科横断的に理解を進める。 (2)グループワーク、ペアワークなどの教員の研修機会を利用し、アクティブラーニングの観点をふまえた授業づくりを推進する。	観点別評価のあり方や説明、グループワークなどの取り組み等については教員の自己評価は非常に高い。教員の視点では着実な進捗があるものと考えている。一方で、保護者の評価はそれほど高くない。これは取り組み自体の問題というよりは、広報の問題が大きいのではないかと感じる。生徒の自ら学ぶ姿勢を育む授業づくりや、グループワーク・ペアワークなどアクティブラーニングの観点をふまえた授業づくりの研修機会の提供については今後も継続して取り組んでいく。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

# 令和6年度 進路指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
進路指導部	目標1:キャリアプランニング能力の育成	3.5	/	/	3	/	/	3.9
	指標1-1:総合的な探究の時間や進路ガイダンスを通して、「働くこと」や職業について考えることができた。							
	指標1-2:進路ガイダンスやオープンキャンパス等を利用しながら、将来の職業について考えたり、進学についての情報を手に入れたりすることができた							
	指標1-3:自分の生き方や将来の職業について主体的に考え、進路目標達成のために情報を収集したり、具体的な取り組みを行ったりできた	/	/	3.7	/	/	3.8	3.7
	目標2:自己理解・自己管理能力の育成	3.4	/	/	2.9	/	/	3.7
	指標2-1:総合的な探究の時間等を活用し、自分の個性や適性について考えることができた							
	指標2-2:学習ポートフォリオや学校行事への振り返り、進路指導室利用等を通じて、自分についての理解を深め、進路目標達成に向けてどのように行動していくべきかを考えることができた							
	指標2-3:進路目標達成に向けて自己分析を行い、自分の特長や、今後身に付けるべき力について考えることができた。	/	/	3.7	/	/	3.8	3.7
	目標3:人間関係形成、社会形成能力の育成	3.3	/	/	3.0	/	/	3.6
	指標3-1:総合的な探究の時間等を通じて、他者とのかかわり方について考えることができた							
	指標3-2:他者の考えや立場を理解し、力を合わせて取り組むことの大切さを学ぶことができた							
	指標3-3:社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーを身に付けることができた。	/	/	3.7	/	/	3.7	3.4
具体的取組		自己評価						
目標1	(1)職業観育成のためのガイダンスや職業体験を企画立案する。 (2)総合的な探究の時間(1年)や特別活動を活用し、自己の在り方や「働くこと」について考える取り組みを企画する。 (3)適時情報を提供するとともに、情報の取捨選択、活用、主体的判断等について支援する。 (4)自分の生き方や将来の職業選択等について何の展望も持たないまま卒業していく生徒をなくす。	学年の協力を得ながら1・2学年は学期終わりに年3回、3学年は6月にガイダンスを行なった。また1年生は1学期末のガイダンスで、活躍する職業人の話を聴き、夏休みには身近な大人に「職業インタビュー」を実践し、2学期に発表した。また3年生の就職希望者にはインターンシップに参加させ、2年生の美容系進学希望者に、美容院での「職場体験」を斡旋した。3年生の就職希望生徒に対しては年度当初より職業観のさらなる深まりを目指し継続的な指導を行い、学年の協力も得て、学校斡旋の就職希望者の内定率は100%となった。						
目標2	(1)総合的な探究の時間(1年)を活用し、自分の個性を発見したり、適性について考えたりする取り組みを設ける。 (2)進路指導室における相談の機会等を通して、今後の可能性の肯定や主体的な行動について支援を行う。 (3)学習ポートフォリオや行事ポートフォリオへの取り組みを通して、自己理解を進めていく。	総合的な探究の時間の学習内容の企画立案を行ったり、探求担当の部員と協力しカリキュラムの改善を図り、職業観育成に努めた。学習ポートフォリオや種々の学力テスト、総合的な探究の時間を始め、学年と協力しながら生徒がより良い自己理解を行えるよう支援を行った。また、進路指導室内の資料の配列に工夫を講じ、生徒の進路指導室利用促進に努めているが、進路指導室を利用した進路相談といった、低学年からの進路指導室利用はまだ改善の余地はある。						
目標3	(1)社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーの涵養に、全職員と協力して取り組む。 (2)多様な他者の考えや立場を理解し、協働するトレーニングの場を設ける(1年総合的な探究の時間)。	数年前以来の全職員に協力を仰いだ言葉遣い指導であるが、顕著な変化が見取れるところまでは至っていない。しかしながら、日々の生徒の言動や、熱心に指導に当たってくださっている先生方の姿に、緩やかであるかもしれないが、好転の兆しも感じている。今後も、社会形成能力の育成に向けた継続的な指導が必要であると考えている。						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

# 令和6年度 生徒指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
生徒指導部	目標1:「生きる力」を育み、自己肯定感の育成を図る。	3.6	3.8	3.6	3.5	3.6	3.6	3.4
	指標1:時間を意識して、遅刻をしないようにし、基本的生活習慣を確立させることができた							
	目標2:自律型高校生を育み、何事にも挑戦する態度を醸成する。	3.3	3.6	3.6	3.0	3.4	3.5	3.4
	指標2:自ら進んで挑戦する態度が身に付いた							
	目標3:学校・家庭・地域・警察を含む関係機関との連携を図り、生徒の健全育成及び問題行動の未然防止に努める。	3.4	3.8	3.8	3.3	3.8	3.9	3.5
	指標3:様々な人々に支えられ、信頼されていることを知り、善悪の判断の意識が高まった							
	具体的取組	自己評価						
目標1	<p>基本的生活習慣を確立させる</p> <p>(1)時間を守る 遅刻をしない意識を根付かせる。(年5500件以内)</p> <p>(2)環境整備 場の雰囲気大切にさせる。ゴミを出さない、捨てないことを徹底させる。</p> <p>(3)挨拶 挨拶の励行、服装を整えさせる。</p> <p>(4)学習に取り組む雰囲気づくり チャイムでの着席。</p>	<p>(1)遅刻者数については6,657件(R7 1月21日現在)となっており、昨年同時期に比べても数は増えている。学年が上がるに連れて少しずつ数が増える。また2学期以降に数が増える傾向にあることから、目的意識を持って学校生活を送れるように指導していきたい。</p> <p>(3)校内では出会った際に挨拶ができる生徒が少しずつ増えているように感じる。身だしなみについては、特に女子生徒の化粧、カラーコンタクトの指導が多かった。月1回のペースで一斉身だしなみ指導を行い、生徒の変化に着目して適切に声掛けができるよう学年・生徒指導部で連携をした。</p>						
目標2	<p>学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。</p> <p>(1)「生徒会アワー」「憧華祭」「球技大会」等各種学校行事において、多くの生徒にリーダーシップを執らせることで、積極的に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>(2)行事の意義や価値を理解させ、マネジメントの手法を理解させる。また、部活動においてはキャプテン・マネージャーミーティング(CMミーティング)を通じて部活動生徒のあり方や行動を徹底させる。</p> <p>(3)生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施する。</p>	<p>(1)各行事において生徒が主体となって取り組むことができるように準備を進めて実行をした。各学年が中心に行う球技大会でも、ルール決めから始まり、当日の準備、運営、片付けなど、それぞれが主役となって取り組む意識を持っていたように感じる。</p> <p>(2)(3)部活動のあり方について、CMミーティング等を中心に考える機会をもった。入部率が約40%程と部活動をしている生徒の数は多くないが、学校の中心として一生懸命頑張れる生徒を1人でも多く育てたい。</p> <p>(3)生徒会と放送・情報メディア部が連携をして校則を周知する動画を作成している。生徒会を中心に今あるルールを全校生徒で確認し、守れるように活動をしようとしている。</p>						
目標3	<p>安全・安心な学校づくりに寄与する</p> <p>(1)関係部署と情報を共有する。</p> <p>(2)常に生徒と向き合う姿勢を発信し、相互理解の礎を構築する。</p> <p>(3)いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。</p> <p>(4)よりよい人間関係を形成する力を育む実践・研究を実施する。</p>	<p>(1)～(4)SNSの発達により、人間関係も複雑になっている。そのことも踏まえて生徒の様子をよく観察し、必要な支援を行えるようにしていきたい。また、関係部署との連携、生徒情報の共有を密にして、安心安全な学校をつくれるように次年度も取り組んでいきたい。</p>						

# 【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 保健部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
保健	目標1:保健活動の推進	3.2	3.4	3.4	2.8	3.2	3.1	3.6
	指標1:保健だより等により、健康への意識が高まった							
	目標2:疾病の予防と早期治療、生活習慣の確立	3.3	3.6	3.5	2.9	3.0	3.1	3.3
	指標2:疾病への意識が高まり、規則正しい生活習慣が身についた							
	目標3:教育相談活動の推進と「合理的配慮」の適切な提供	3.3	3.3	3.5	3.0	3.2	3.4	3.9
	指標3:カウンセリング等、相談できる環境が整っていた							
	目標4:安全点検の励行と事故防止	3.3	3.6	3.6	3.1	3.6	3.5	3.9
	指標4:安全に配慮して教育活動がなされていた。							
	具体的取組	自己評価						
目標1	心身の健康について関心を持ち健康意識を高める。 (1)学校保健安全計画の立案、実施による健康管理保健教育を徹底する。 (2)毎月保健だよりを発行し、健康への意識を高める。 (3)生徒保健委員会の自主的な実践活動の促進を図り、保健活動への意識を高める。	心身の健康について関心を持ち健康意識を高める。 (1)学校保健安全計画の立案、実施による健康管理保健教育を徹底することができた。 (2)毎月保健だよりを発行し、健康への意識を高めることができた。 (3)身体計測や健康診断、尿検査、体育大会、修学旅行時の健康チェックなど、生徒保健委員会の自主的な実践活動の促進を図り、保健活動への意識を高めることができた。						
目標2	基本的な生活習慣を確立し、自己管理ができる力を身に付ける。 (1)学校医・委嘱医療機関と連携し、健康診断の結果を基に疾病の早期治療、予防を意識づける。 (2)性教育講演会や歯科衛生講習会を通じて自身の健康について意識を高める。 (3)日常の感染症予防を意識した生活習慣を確立させる。 (4)生徒指導部とも連携し、遅刻・欠席の数を10%減少させる。	基本的な生活習慣を確立し、自己管理ができる力を身に付ける。 (1)健康診断の結果を基に疾病の早期治療、予防を意識づけることができた。 (2)各種講演会・講習会を通じて自身の健康について意識を高めることができた。 (3)日常の感染症予防を意識した生活習慣を確立させることができた。 (4)昨年度より増加傾向にあることから、目的意識を持って学校生活を送れるように継続して指導していきたい。						
目標3	(1)特別支援教育委員会を中心にした相談体制の充実を図る。 (2)個人面談やキャンパスカウンセラーによるカウンセリング等を通し問題の早期発見に努める。 (3)教職員に対するカウンセリングマインド研修会を実施する。 (4)個々の状況に応じた通級による指導の実施、合理的配慮の実施と情報の共有と研修を行う。	(1)特別支援教育委員会を中心にした相談体制の充実を図ることができた。 (2)個人面談やC.C.によるカウンセリング等を通し問題の早期発見に努めることができた。 (3)教職員に対するカウンセリングマインド研修会を実施し、教員の生徒理解力の向上となる。 (4)通級による指導の実施、合理的配慮の実施と情報の共有と研修を行った。						
目標4	校内救急体制の整備 (1)安全点検の励行による学校管理下における事故防止の推進を図る。 (2)生徒個々の安全意識を高める指導を行う。	校内救急体制の整備 (1)安全点検の励行による学校管理下における事故防止の推進を図ることができた。 (2)生徒個々の安全意識を高める指導により、安全に配慮して教育活動がなされていた。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和6年度 総合健康類型

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員	
総合健康類型	目標1：1年次 アクティブ・ラーニング、コミュニケーション力の向上	3.0	/	/	2.5	/	/	3.5	
	指標1-1 ボランティア活動に進んで参加した。								
	指標1-2 傾聴、アサーショントレーニングを学び、学校生活の中で取り入れることができた。								
	指標1-3 仲間と協力する大切さを理解することができた。	3.6	/	/	3.4	/	/	3.6	
	目標2：2年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できる力を身につける。	/	3.7	/	/	/	3.3	/	3.4
	指標2-1 ボランティア活動に参加し、自らの役割を理解し活動ができた。								
	指標2-2 幼児との交流を通じて、わかりやすく自分の意見や思いを伝えるために工夫することができた。								
	指標2-3 医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持ったものについてプレゼンテーションを行うことができた。	/	3.7	/	/	3.1	/	3.6	
	目標3：3年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できるリーダーシップを身につける。	/	/	4.2	/	/	/	3.6	3.5
	指標3-1 手話コミュニケーションを通し、聴覚障害について理解を深めることができた。								
	指標3-2 学校行事をすすめる中で、準備や企画、運営に携わり自ら考え行動することができた。								
	指標3-3 医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持った課題を設定し、卒業論文を発表できた。	/	/	4.1	/	/	/	3.5	3.5
具体的取組		自己評価							
目標1	特別編成時間割時に特色類型合格者、類型選択後は総合健康類型選択者を対象に特別講義を実施する。 ○救急救命講習会 ○コミュニケーション能力の向上 ○神戸マラソンボランティアに参加 ○チームビルディング	・救急救命法、外部講師によるアサーションコミュニケーション・傾聴・チームビルディングの特別授業を実施。 ・神戸マラソンボランティアに事前学習に参加し、当日のボランティア活動に参加し、自らの役割を理解し活動ができた。 ・良好なコミュニケーションをとり、仲間と協力して取り組むことの大切さを学んだ。							
目標2	医療・スポーツ・健康に関する講義、実習 ・コーチング・ティーチング ・他人の気持ちを理解する心のはたらき ・テーピング入門 ・健康なからだをつくるための体カトレーニング ・障害と障害者のとらえ方 ・筋の仕組みを調べる方法 ・幼児教育について、わかばの森保育園との交流 ・関節運動について ・防災・減災について	・外部講師による医療・スポーツ・健康に関する講義、実習の特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを実施し、理解を深めた。 ・柔道整復師の仕事・身体のおくみ・競技力向上と食事・障害と障害者について・自主的に生きる・スポーツの仕事 ・防災・減災について、避難所運営ゲーム ・臓器移植・幼児に大切な遊び・幼児教育について・保育園との交流実習・特別支援学校との交流予定 ・医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持ったものについてプレゼン発表を実施。 ・神戸マラソンボランティアに参加し、自らの役割を理解し活動ができた。 ・筋肉と骨格筋について、名称と働きについて理解を深めた。							
目標3	医療・スポーツ・健康に関する講義、実習 ・柔道整復師の仕事について ・姿勢は人を劇的に変える ・対人援助職について ・防災・減災 ・手話講座 ・地域交流 ・卒業論文	・外部講師による医療・スポーツ・健康に関する講義、実習の特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを実施した。 ・柔道整復師の仕事について・姿勢は人を劇的に変える・対人援助職について・防災・減災についての特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを行い理解を深めた。 ・宝塚市役所 障害(がい)福祉課 派遣講師による手話講座を実施し、手話コミュニケーションを通し、聴覚障害について理解を深めることができた。 ・医療・スポーツ・健康に関する分野から自ら興味を持った課題を設定し、卒業論文を作成し、要旨について発表することができた。 ・筋肉と骨格筋、さらに人体の各器官と構造について、名称と働きについて理解を深めた。							